

FS 38

STIHL



2 - 25 取扱説明書



目次

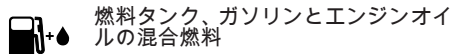
1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス.....	8
4	ループ ハンドルの取り付け.....	9
5	デフレクターの取付け.....	10
6	カッティング アタッチメントの取付け.....	10
7	燃料.....	13
8	給油.....	14
9	エンジンの始動と停止.....	14
10	作業中の注意事項.....	17
11	エアーフィルターの掃除.....	17
12	キャブレターの調整.....	18
13	スパーク プラグ.....	18
14	エンジンの動作.....	19
15	機械の保管.....	19
16	カッティング ヘッドの保守.....	20
17	スチール販売店による点検と保守.....	21
18	整備表.....	21
19	磨耗の低減と損傷の回避.....	22
20	主要構成部品.....	23
21	技術仕様.....	23
22	整備と修理.....	24
23	廃棄.....	24
24	EC 適合証明書.....	24
25	UKCA 適合宣言.....	25
26	アドレス.....	25

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



デコンプレッサーの操作



手動燃料ポンプ



手動燃料ポンプの操作



グリースチューブ



インテークエアー： 夏季作業



インテークエアー： 冬季作業



ハンドルヒーター

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



カッティングアタッチメントが超高速で回転するため、本パワーツールの操作中は、負傷する危険を低減するために特別な安全上の注意事項を遵守する必要があります。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書の記載事項を遵守しないと、重傷や致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制（業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定）にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合：STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるが、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください。ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子供、動物、見物人を機械に近付けないでください。

油圧機器は使用
禁止です。

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2024
0458-234-4321-E: VA11B24.

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないよう配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

お使いの刈払機は、装着されているカッティングアタッチメントに適した草、雑草、同様の物の切断にのみ使用してください。

事故が起きる危険や機械が損傷する危険が増大するため、パワーツールは本来の目的以外には使用しないでください。パワーツールにはいかなる改造も加えないでください。事故が生じたり、本機が損傷したりするおそれがあります。

STIHL 社がこのパワーツールを使用することを明示的に承認したか、技術的に同等のカッティングアタッチメントとアクセサリーだけを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリーのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリーの使用をお勧めしています。そうした純正部品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

本機に取り付けたガードは、作業者を回転するカッティングアタッチメントによって飛散する物体（石、ガラス、ワイヤーなど）の一部からしか保護することはできません。物体が飛散し、作業者に当たるおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。



木々、茂み、機械の可動部に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けてしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らず、頑強な作りの靴を履いてください。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

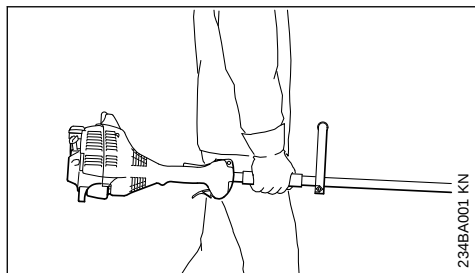
「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬



必ずエンジンを切ってください。

シャフトまたはループハンドルで適切にバランスを取りながら機械を運搬してください。

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します - 本取扱説明書の関連する章を参照してください：

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ（手動燃料ポンプ付きの機械のみ）等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。**火災が起きる危険があります！**サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 組み合わせが承認されているカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスのみを使用してください。すべての部品は、適正かつ確実に組み立てられている必要があります。負傷する危険を低減するために、金属製カッティングツールは**絶対**に使用しないでください。
- スライドコントロール/停止スイッチは、容易に **STOP** または **0** 位置に移動できなければなりません。
- スロットルトリガーロックアウト（装着されている場合）とスロットルトリガーは、スムーズに作動しなければなりません。スロットルトリガーは、自動的にアイドリング位置に戻る必要があります。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります！**
- カッティングアタッチメントが適切に取り付けられ、状態が良好か点検します。
- 安全装置（カッティングアタッチメント用デフレクターなど）に損傷や摩耗がないか点検します。損傷した部品は、必ず交換してください。デフレクターが損傷している機械は、絶対に使用しないでください。
- 操作部や安全装置は、絶対に改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態（オイルや汚れが付着していない状態）に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うよう調整します。

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！

ハーネス使用時の緊急事態に備えるために：本機を素早く地面に降ろす練習をします。この練習中は、本機を地面に投げ下ろして損傷させないように注意してください。

2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

機械を屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。機械をしっかりと保持します。エンジン始動時に作動

するおそれがあるため、カッティングアタッチメントを地面や他のあらゆる障害物に接触させないでください。

パワーツールは一人で操作してください。飛散物で**負傷する危険を低減するために**、半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。始動時にもこの点を厳守してください。



カッティングアタッチメントに触れないでください。**負傷する危険があります！**

エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。



スロットルトリガーを放した後、カッティングアタッチメントはしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によるものです！**

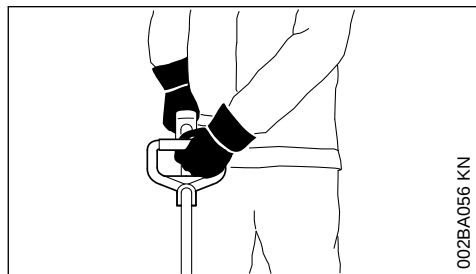
エンジンのアイドリングを点検します：(スロットルトリガーを放した) エンジンのアイドリング中は、カッティングアタッチメントは静止していません。

火災が生じる危険を低減するために、燃えやすい物(木屑、樹皮、枯れ草、燃料等)は高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。

2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。

バランスと安定した足場を確保してください。



ループハンドルを左手で握り、シャフトハンドルを右手で握ります。左利きでも同様です。

2.7 作業時

危険が差し迫っている場合や緊急時は、速やかにエンジンを切ります。スライドコントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置に動かしてください。



カッティングアタッチメントが物体を噛み込み、遠くまで飛ばしてケガの原因になることがあります。そのため、作業者の位置から半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。この距離は、物体(車両、窓ガラスなど)に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！** 15 m 以上離れた場所においても、危険は皆無ではありません。

エンジンが適切なアイドリング状態になるか点検します。スロットルトリガーを放すと、カッティングツールは停止しなければなりません。

定期的にアイドリング回転数の設定を点検し、修正してください。アイドリング回転時にもカッティングアタッチメントが回転する場合は、サービス店に調整または修理を依頼してください。

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば**濡れた面、雪や氷で覆われた面、斜面、凸凹のある地面**。

樹木の切り株や根などの障害物に注意してください。**つまづく危険があります！**

バランスと安定した足場を確保してください。

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしごや可動式昇降台に乗った状態では絶対に作業しないでください。

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声(叫び声、警笛など)が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないよう配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があり、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重傷または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場

所での作業時は適切に換気してください。これにより、**有毒ガスを吸引することによる重傷や致命傷を負う危険を低減できます。**

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では喫煙は避けてください。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

作業中に発生する粉塵、噴霧、噴煙は、健康面に害を及ぼすことがあります。大量の粉塵または噴煙が発生する場合は、呼吸保護具を着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」も参照)。

特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。



使用する機械やカッティングアタッチメントに適したガードを取り付けない状態では、絶対に作業を行わないでください。飛散物によって**負傷する危険があります！**



作業エリアを点検してください。岩や金属の物体などは挟まり、15 mを超える距離を飛散するおそれがあります。**負傷する危険があります！**- カッティングアタッチメントや他の器物(駐車中の車両、窓など)を損傷させることもあります。

作業が困難な、繁茂した場所での作業時は特に注意してください。

背の高い植え込み、植え込みの下側、生垣を刈払いするときは、動物を危害を加えないよう、カッティングツールを 15 cm 以上の高さで保持します。

機械から離れる前に、必ずエンジンを切ってください。

作業中はカッティングブレードを定期的かつ頻繁に点検し、切断動作に変化が感じられたときは、次の方法で直ちに点検してください。

- エンジンを切り、機械を確実に保持し、カッティングアタッチメントを地面に押し付けて止めます。
- 状態と締め付け具合を点検し、細かな亀裂の有無を確認します。
- 不具合のあるカッティングアタッチメントはすぐに交換してください。細かなひび割れが見られる場合も同様です。

カッティングアタッチメントの取り付け部から定期的に草木の切れ端を取り除きます。カッティングアタッチメントとデフレクターに蓄積した異物は、取り除いてください。

負傷する危険を低減するために、エンジンを停止させてからカッティングアタッチメントを交換してください。

損傷や亀裂が生じたカッティングアタッチメントを引き続き使用したり、溶接、矯正、形状変更による修理を試みたりしないでください(アンバランスな状態を引き起こします)。

破片が高速で飛散して作業者や見物人に当たるとおそれがあります。**重傷を負う危険があります！**

回転する金属製カッティングアタッチメントが岩や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、可燃物が引火する可能性があります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合、可燃物、枯れた植物、茂みの付近で金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

2.7.1 草刈ヘッドを使用する場合

カッティングラインが承認されている長さに制限されるよう、ブレードが適切に取り付けられたデフレクターだけを使用してください。

必ずエンジンを切ってから手動調整式草刈ヘッドを調整してください。**負傷する危険があります！**

長すぎるナイロンラインを使用すると、エンジンの回転数が低下します。常にクラッチが滑ると、例えばアイドリング時のカッティングアタッチメントの回転によって重要部品(クラッチ、プラスチックハウジング部品など)が過熱したり、損傷したりします。**負傷する危険があります！**

2.8 振動

チェーンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- － 手の防護（暖かい手袋）
- － 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- － 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- － 低い外気温。
- － ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.9 整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は STIHL サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店だけに依頼されることをお勧めします。STIHL サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

当社では STIHL 純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するため、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください。** - 例外: キャブレターおよびアイドルリング回転数の調整時は例外です。

スパーク プラグ ターミナルまたはスパーク プラグを外した状態でスターターを操作する場合は、スライドコントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起こす危険**があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパーク プラグだけを使用してください。（「技術仕様」の項を参照）

イグニッション ケーブルに異常がないこと（良好な絶縁状態、接続の確実性）を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。 -

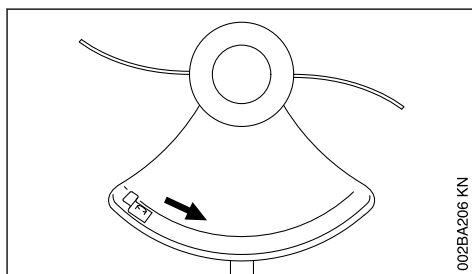
高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

2.10 カutting アタッチメントおよびデフレクター

安全上の理由から、機種固有の取扱説明書で承認されているカutting アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよび肩掛けベルトの組み合わせのみを使用してください。

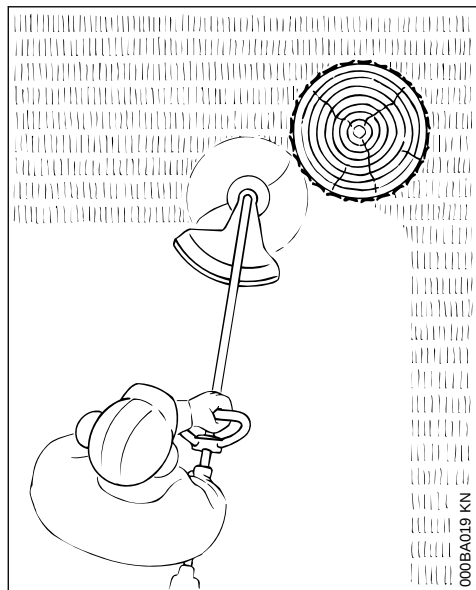
カutting ヘッドは、カーブ ドライブ チューブおよびループ ハンドル付き刈払機のみで使用できます。

2.10.1 デフレクター上の記号



矢印は、カutting アタッチメントの回転方向を示しています。

2.11 ナイロンラインを装備したカッティングヘッド



ナイロンラインにより、フェンス柵や木などの周囲の縁取りやトリミングをきれいにソフトにカットできます - 樹皮はほとんど傷付きません。

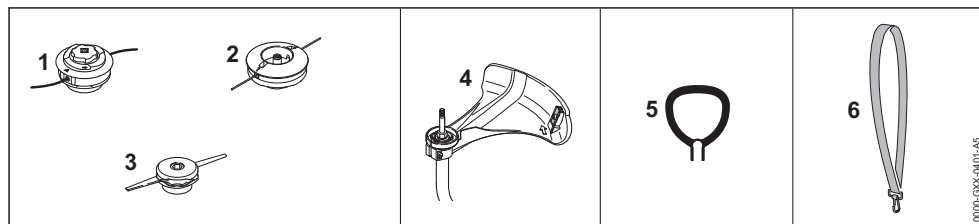
3 組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス

カッティングツール

デフレクター

ハンドル

ハーネス



3.1 承認された組み合わせ

カッティングツールに応じて、表から適切な組み合わせを選択してください！



警告

安全上の理由から、他の組み合わせは許可されていません - **事故の危険があります！**

3.2 カッティングツール

3.2.1 草刈ヘッド

- 1 STIHL AutoCut C 6-2
- 2 STIHL DuroCut 5-2

3 STIHL PolyCut 6-2

3.3 デフレクター

4 草刈ヘッド用ブレード付きデフレクター

3.4 ハンドル

5 ループハンドル

3.5 ハーネス

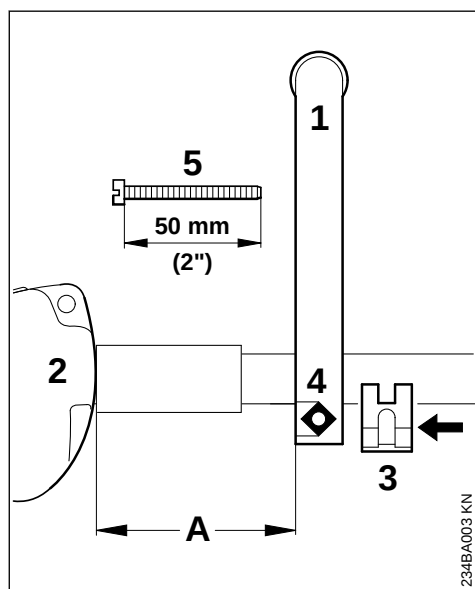
6 肩掛けベルトを使用することができます。

4 ループ ハンドルの取り付け

ループハンドルは仕様によって異なることがあります。

4.1 仕様 A

ループハンドルの取り付け



- ▶ ループハンドル (1) をコントロールハンドル (2) から (A) 約 15 cm (6 in.) の間隔を空けてシャフトに装着します
- ▶ クランプ (3) をシャフトに取り付けて、ループハンドルにスライドさせます
- ▶ 四角ナット (4) をループハンドルにあてがいます
- ▶ テンショニングスクリー (5) を反対側から差し込んで締め付けます

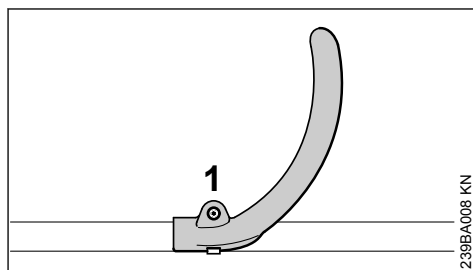
ループハンドルを最適な位置に移動する

- ▶ スクリュー (5) を緩めます
- ▶ ループハンドルをシャフト上で希望通りにずらしします
- ▶ スクリュー (5) を締め付けます

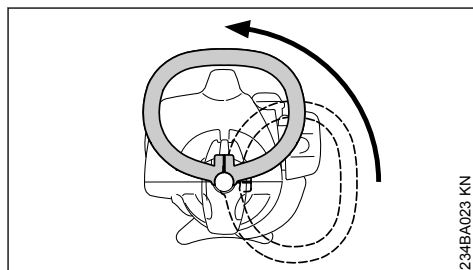
4.2 仕様 B

新しい機器の納品時にループハンドルは既にシャフトに取り付けられていますが、そこから回して位置を合わせる必要があります。

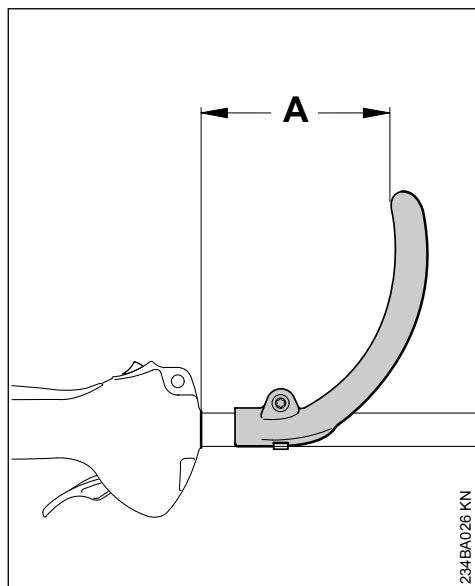
ループハンドルの位置合わせ



- ▶ スクリュー (1) を緩めます



- ▶ ハンドルをシャフトを軸にして上に回します



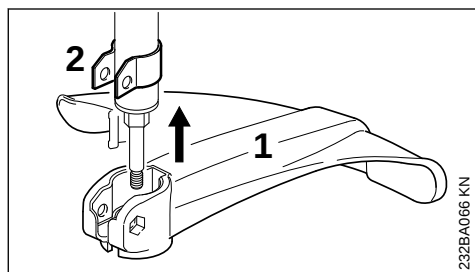
234BA026 KN

間隔 (A) を変更することで、ハンドルを操作者と用途にとって最適な位置に移動することができます。

推奨：間隔 (A) 約 15 cm (6 in.)

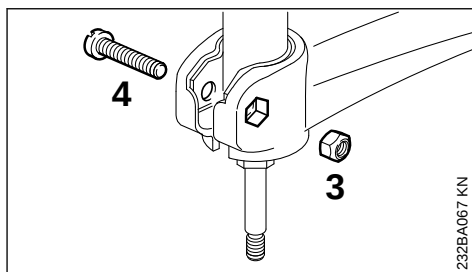
- ▶ ハンドルを希望の位置にずらしす
- ▶ スクリューを締め付けて、ハンドルがシャフトを軸にして回転しなくなるようにします

5 デフレクターの取付け



232BA066 KN

- ▶ デフレクター (1) をクランプ (2) に止まるまで押し込みます。

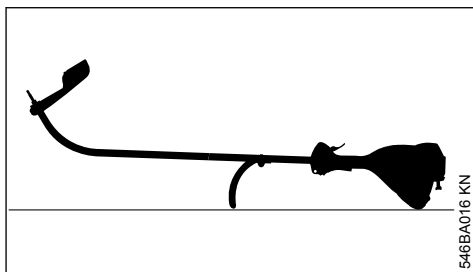


232BA067 KN

- ▶ ナット (3) をデフレクターの六角溝に差し込みます - 穴を確実に揃えます。
- ▶ スクリュー (4) を差し込み、しっかりと締め付けます。

6 カutting アタッチメントの取付け

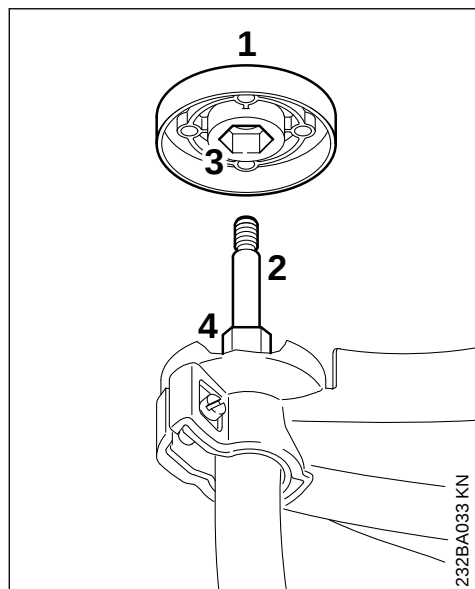
6.1 パワーツールを地面に置く



546BA016 KN

- ▶ エンジンを停止してください。
- ▶ ループ ハンドルを下側に、シュラウドを下方に向けて、出力シャフトを上方向に向けて、刈払機を置きます。

6.2 スラストプレート



スラストプレート (1)は、デュロカット 5-2 とポリカット 6-3 に同梱されています。スラストプレートはこれらの草刈ヘッドにのみ必要です。

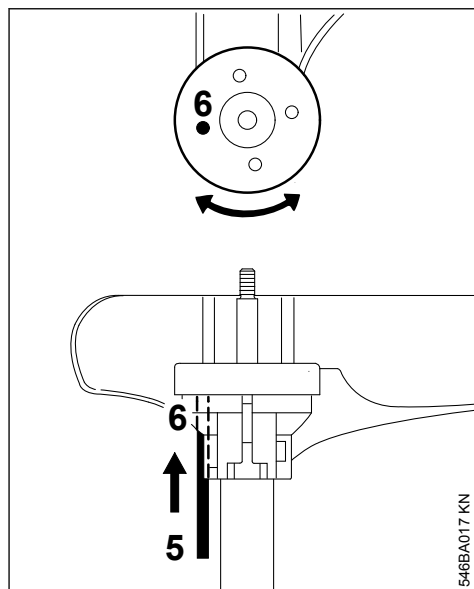
STIHL オートカット 5-2 草刈ヘッド、STIHL オートカット C 5-2 草刈ヘッド

- ▶ 取り付けられている場合は、スラストプレート (1) をシャフト (2) から引き抜きます。

STIHL デュロカット 5-2 草刈ヘッド、STIHL ポリカット 6-3 草刈ヘッド

- ▶ スラストプレート (1) をシャフト (2) に差し込み、外部六角形 (4) を六角溝 (3) にかみ合わせます。

6.3 シャフトの固定

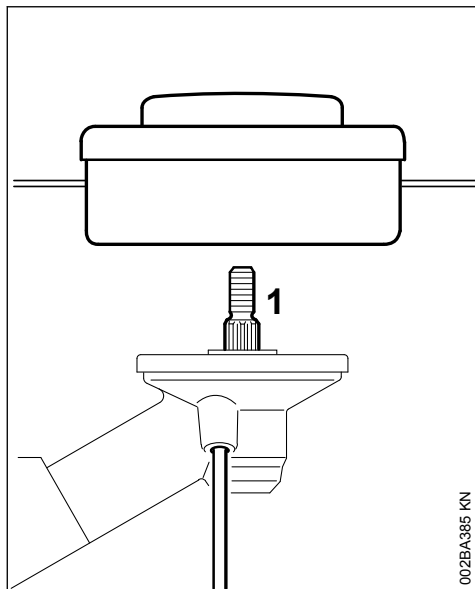


- ▶ シャフトを固定するために、適切な工具 (5) をデフレクターとスラストプレートの穴 (6) に挿入します - 必要に応じてスラストプレートを左右に回します。

6.4 スクリュー取り付け部付き草刈ヘッドの取り付け

草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

6.6.1 STIHL AutoCut C 6-2



002BA385 KN

- ▶ スラストプレートを取り付けます
- ▶ 草刈ヘッドをシャフト (1) に反時計回りに止まるまでねじ込みます。
- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます

注記

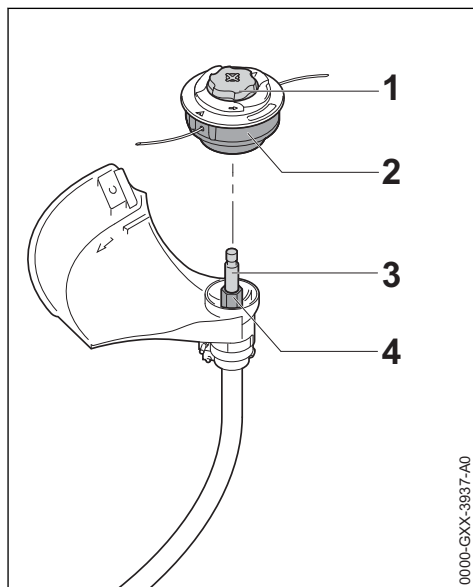
シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

6.5 草刈ヘッドの取り外し

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ 草刈ヘッドを反時計回りにまわします。

6.6 スクリュー装着部なしの草刈ヘッドの取り付け

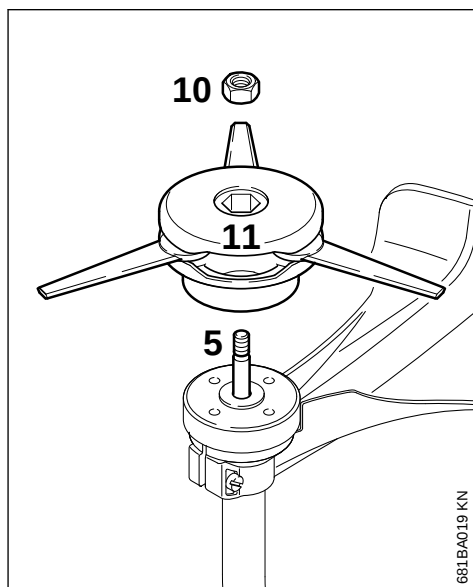
草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください！



0000-GXX-3937-A0

- ▶ 草刈ヘッド (2) をシャフト (3) に通します。内側六角部 (2) を六角部 (4) に挿入してください。
- ▶ 草刈ヘッド (2) を手で保持します。
- ▶ キャップ (1) を時計回りにまわし、手で確実に締め付けます。

6.6.2 STIHL PolyCut 6-2、PolyCut 7-3



681BA019 KN

- ▶ スラストプレートをシャフトに取り付けます。
- ▶ ナット (10) を草刈ヘッドに差し込みます。
- ▶ 草刈ヘッド (11) を時計回りにまわし、シャフト (5) にはめ込みます
- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます。

**警告**

簡単に動くナットは交換する必要があります。

注記

シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

6.7 草刈ヘッドの取り外し

6.7.1 STIHL AutoCut

- ▶ スプールハウジングを確実に保持します。
- ▶ キャップを反時計方向に緩めます。

6.7.2 STIHL PolyCut

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ 草刈ヘッドを反時計回りにまわします。

7 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。

**警告**

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

7.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

7.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

7.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン (E27) を使用して本来の性能を発揮します。

7.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra (ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

7.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジンオイルとガソリンを混合してください (オイル 1 に対してガソリン 50)。

7.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

7.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短時間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



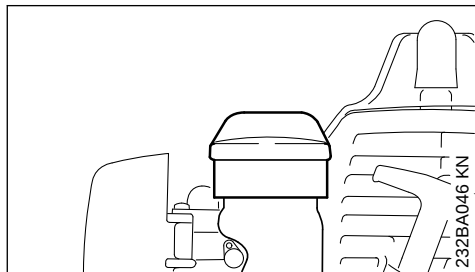
警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

8 給油



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィルターキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ フィラーキャップが上を向くように機械を置きます。
- ▶ フィラーキャップを開きます。

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。当社では STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めします。

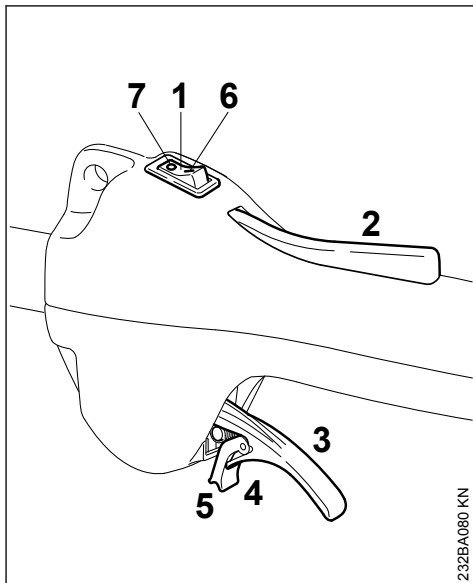


警告

給油の後は、フィルターキャップをできる限りしっかりと手で閉めてください。

9 エンジンの始動と停止

9.1 操作部

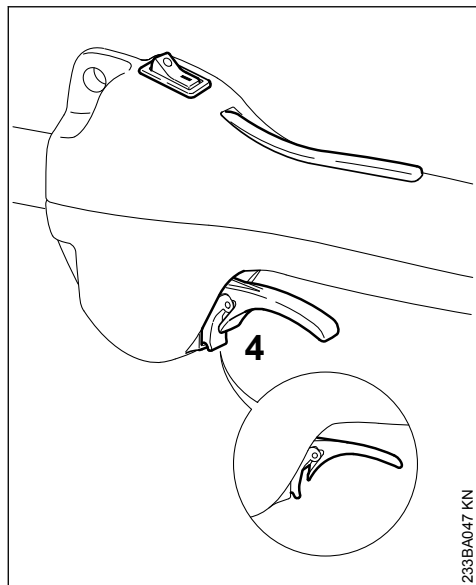


- 1 ストップスイッチ
- 2 スロットルトリガー ロックアウト
- 3 スロットルトリガー
- 4 スロットルトリガーのトンガ
- 5 キャッチ

9.1.1 停止スイッチの位置

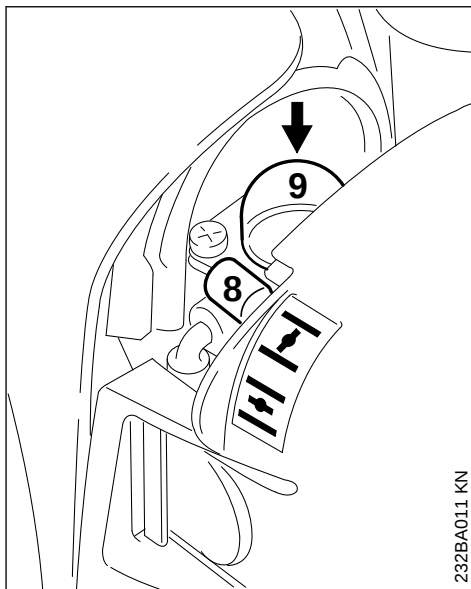
- 1 - 通常運転の位置 - エンジン運転中または始動可能。
- 2 - 0Stop - エンジンが停止 - イグニッションがオフの状態。

9.2 始動



233BA047 KN

- ▶ ストップスイッチを1に移動します。
- ▶ スロットルトリガー インターロックを押し下げ、そこで保持します。
- ▶ トング (4) のキャッチがハウジング (矢印) とかみ合うまでスロットルトリガーを握ります。
- ▶ スロットルトリガー、トング、トリガー ロックアウトの順で放します。これが**始動スロットルの位置**です。



232BA011 KN

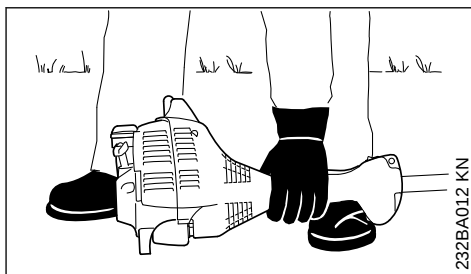
- ▶ チョークレバー (8) を次のようにセッットします。

Ⅰ
Ⅱ

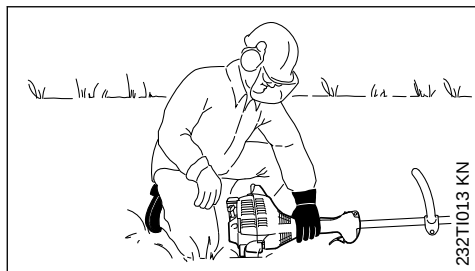
エンジンが冷えている場合
暖機スタートの場合 - エンジンの始動後、温まりきっていない場合もこの位置を使用します。

- ▶ 手動燃料ポンプ (9) を最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

9.2.1 始動操作



232BA012 KN



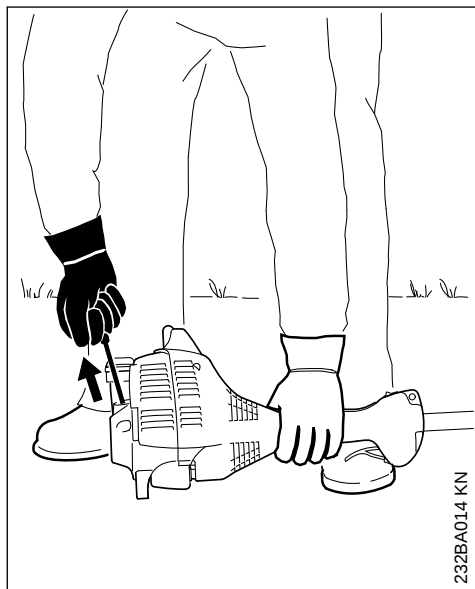
- ▶ 機械を地面に置きます：エンジン サポートとデフレクターを地面にしっかりと当てます。

事故の発生を防ぐために、カッティング アタッチメントが地面あるいはその他の物体と接触していないことを確認します。

- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて、安定した足場を確保します。
- ▶ 機械を左手で地面上にしっかり固定して、押し付けます - 親指をファン ハウジング下方に向けて握ります - スロットル トリガーやトリガー ロックアウトに触れないようにしてください。

注記

ドライブ チューブに足を載せたりひざまずいたりしないでください。



- ▶ 右手でスターター グリップを握ります。

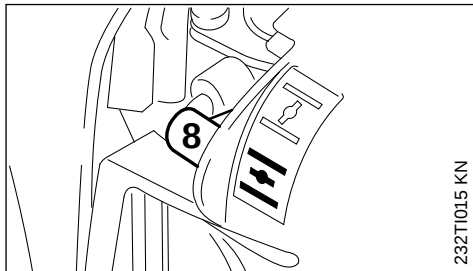
- ▶ スターター グリップをゆっくり引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。

注記

スターター ロープは最後まで引き出さないでください - 切れる恐れがあります。

- ▶ スターター グリップを急に放さないでください。手を添えてハウジングにゆっくりと巻き込むとスターター ロープは正しく巻き込まれます。
- ▶ 始動操作を続けます。

9.2.2 エンジンが初爆したら



- ▶ 最高でも 5 回引っ張ったら、チョーク レバー (8) を Ⅲ に移動し、
- ▶ 始動操作を続けます。

9.2.3 エンジンがかかったらすぐに

- ▶ スロットル トリガーを握ってトングを解除します。エンジンがアイドリング回転数で安定します。



警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、カッティング アタッチメントが回転しないようにしてください。

これで機械の使用準備が完了しました。

9.3 エンジンの停止

- ▶ 停止スイッチを 0 に動かします。

9.4 エンジンがかからない場合

チョーク レバー

エンジンが初爆した後すぐにチョークレバーを Ⅲ の位置に動かさないと、燃焼室に燃料を吸い込みすぎてしまいます。

- ▶ チョークレバーを Ⅲ にセットします。
- ▶ 停止スイッチを I に動かし、ロックアウト レバーおよびスロットル トリガーを始動スロットル位置に動かします。

- ▶ スターター ロープを素早く引っ張って、エンジンを始動します - 10 回から 20 回必要なことがあります。

それでもエンジンがかからない場合

- ▶ 停止スイッチを 0 に動かしします。
- ▶ スパーク プラグを取り外します - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スパーク プラグを乾かします。
- ▶ 燃焼室の換気のため、スターターを数回引っ張ります。
- ▶ スパーク プラグを再び取り付けます - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ ストップ スイッチを I に移動します。
- ▶ チョークレバーを 三 にセットします。エンジンが冷えている場合も同様です。
- ▶ エンジンを再始動します。

9.4.1 燃料タンクが完全に空になった場合

- ▶ 再給油したら、手動燃料ポンプに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ チョークレバーを、エンジン温度に合わせてセットします。
- ▶ エンジンを再始動します。

10 作業中の注意事項

10.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

10.2 作業中

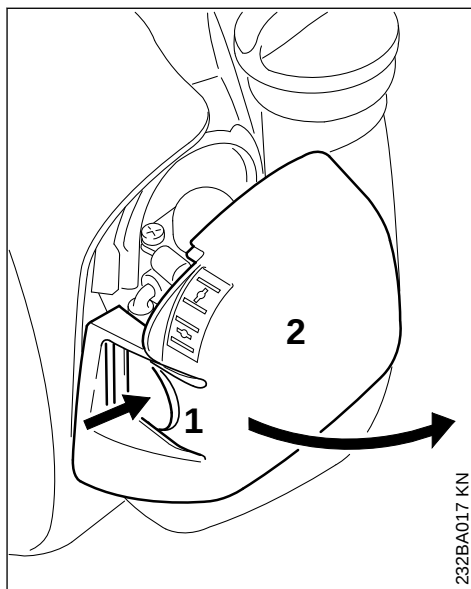
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

10.3 作業後

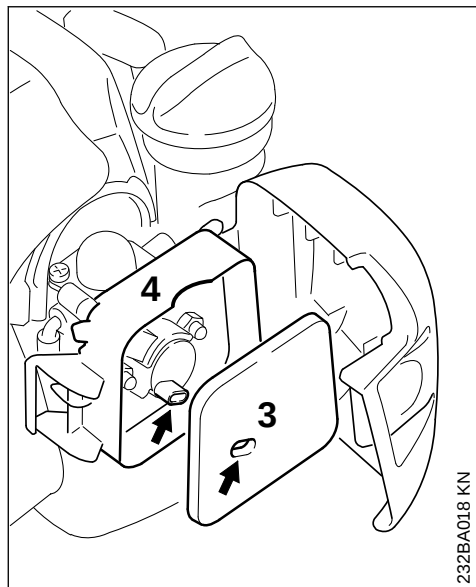
短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

11 エアフィルターの掃除

11.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークレバーを 二 にセットします。
- ▶ タブ (1) を押し込み、フィルター カバー (2) を下に回します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



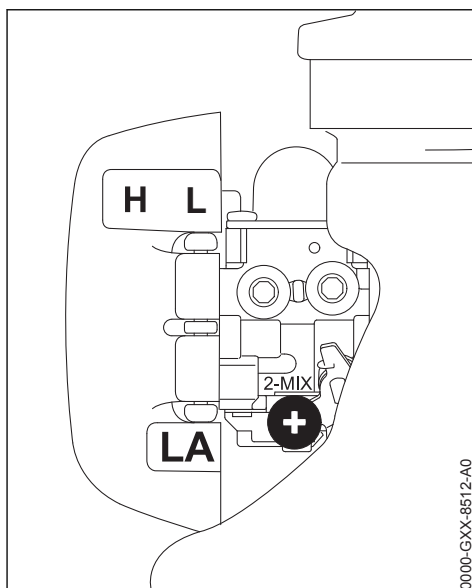
232BA018 KN

- ▶ フェルト エLEMENT (3) をフィルター ハウジング (4) から外し、交換します - 一時的な対処法として手でたたいたり、風を吹き付けて掃除します - 洗浄はしないでください。
- ▶ 破損した部品は交換してください。
- ▶ フェルト エLEMENT (3) をフィルター ハウジング (4) に取り付けます。
- ▶ フィルター カバーを閉じ、正しい位置にかみ合うようにします。

12 キャブレターの調整

キャブレターは、大半の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

12.1 アイドリング回転数の調整



0000-GXX-8512-A0

- ▶ エンジンをかけて暖機します。

12.1.1 アイドリング回転中にエンジンがストールする

- ▶ エンジンの回転が滑らかになるまで、アイドリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆっくりと回します - カuttingアタッチメントが回転してはいけません。

12.1.2 アイドリング中にCuttingアタッチメントが回転する場合

- ▶ Cuttingアタッチメントが停止するまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計回りに回した後、さらに 1/2 ~ 1 回転、同一方向に回します。



警告

エンジンのアイドリング回転時にCuttingアタッチメントが回転し続ける場合、STIHL サービス店に点検と修理を依頼してください。

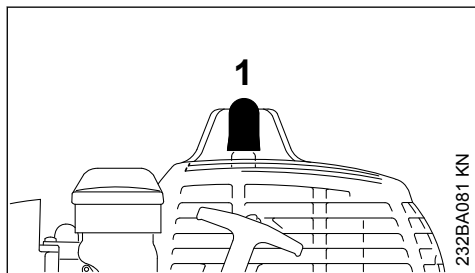
13 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。

- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

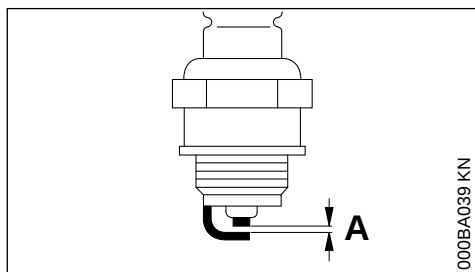
13.1 スパークプラグの取り外し

- ▶ 停止スイッチを 0 に動かします。



- ▶ スパークプラグターミナル (1) を抜き取ります。
- ▶ スパークプラグを緩めます。

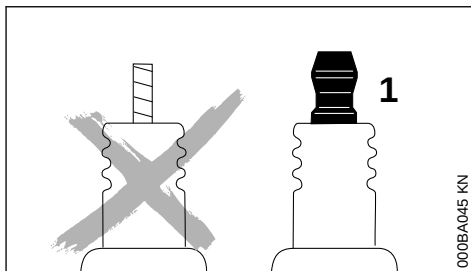
13.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

13.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグを座位にねじ込み、ターミナルをしっかりと押し込んで取り付けます。

14 エンジンの動作

エアフィルターを掃除してキャブレターを適切に調整しても、エンジンの動作が不十分な場合は、マフラーが原因の可能性があります。

マフラーが汚れていないか (カーボンで詰まる)、スチール サービス店で点検してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

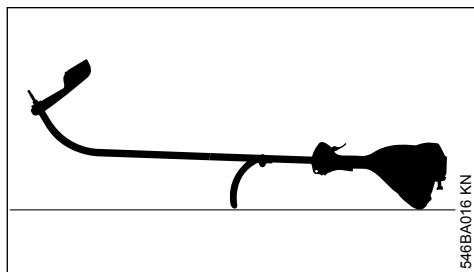
15 機械の保管

機械を約 30 日以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合: 手動燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ エンジンを始動し、エンジンが停止するまでアイドリングを続けます。
- ▶ カuttingツールを取り外し、清掃し、点検します
- ▶ 特にエアフィルターに注意しながら、機器を急に清掃してください！
- ▶ 機器を乾燥した安全な場所に保管してください - (子供など) 権限のない人物が手にすることを防止してください

16 カutting ヘッドの保守

16.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止してください。
- ▶ ループ ハンドルを下側に、シュラウドを下方に向けて、出力シャフトを上方向に向けて、刈払機を置きます。

16.2 ナイロンラインの交換

必ず草刈ヘッドが摩耗していないか点検してからナイロンラインを交換してください。



警告

摩耗がひどい場合、草刈ヘッド一式を交換してください。

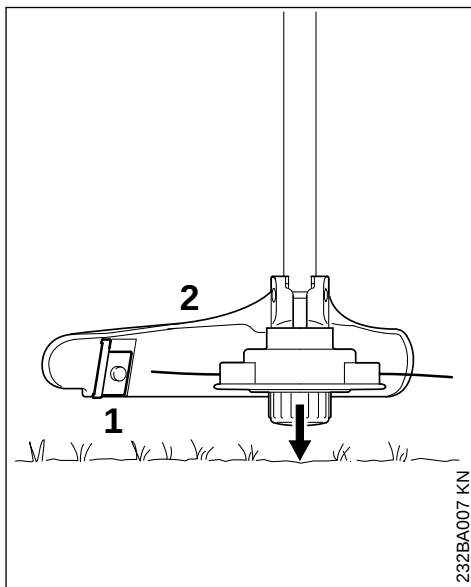
以降では、ナイロンカuttingラインを「ナイロンライン」または「ライン」と呼びます。

草刈ヘッドには、ナイロンラインの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されています。草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

- ▶ 必要に応じて、草刈ヘッドを取り外します。

16.3 ナイロンラインの送り出し調整

16.3.1 STIHL オートカット



- ▶ 回転する草刈ヘッドを、地面に対して平行に保ちます - 一度地面を軽く叩きます - 新しいナイロンラインが約 3 cm (1.2 in) 送り出されます。
- ▶ 余分な長さのナイロンラインは、デフレクター (2) のブレード (1) で最適な長さにカットされます - 本機で繰り返し地面を叩かないでください。

両方のラインの長さが 2.5 cm (1 in) の最低長になるまでは、ラインが送り出されます。

ナイロンラインが 2.5 cm (1 in) 未満になった場合：



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止させてからナイロン製カuttingラインを調整してください。

- ▶ 機械を裏返しにします。
- ▶ キャップを止まるまでスプールに押し込みます。
- ▶ ラインの端をスプールから引き出します。

スプールが空の場合は、ナイロンラインを補充してください。

16.3.2 他のすべての草刈ヘッド

草刈ヘッドに添付されている説明書を参照してください。

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長い、作業条件が過酷な場合(粉塵が極端に多い場所等)は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		推奨 整備 作業 頻度	日 毎 の 作 業 後 の 点 検	世 帯 用 機 器 の 点 検	週 毎	月 毎	12 ヵ 月 毎	時 間 毎	時 間 毎	時 間 毎	注 意 事 項
燃料タンク内のピックアップボディ(フィルター)	点検はサービス店 ¹⁾ に依頼してください								X		
	交換はサービス店に依頼してください ¹⁾						X			X	X
燃料タンク	清掃								X		X
キャブレター	アイドリング調整の点検 - カuttingアタッチメントが回転しないこと	X		X							
	アイドリング回転数の調整										X
スパークプラグ	電極ギャップの調整								X		
	100 運転時間毎に交換										
冷却風吸入部	目視検査		X								
	清掃										X
すべてのスクリューとナット(調整スクリューを除く)	締め直し										X
Cuttingアタッチメント	目視検査	X		X							
	交換									X	
	締め付け状態の確認	X		X							
安全ラベル	交換									X	

¹⁾STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

19 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

19.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンドラーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。

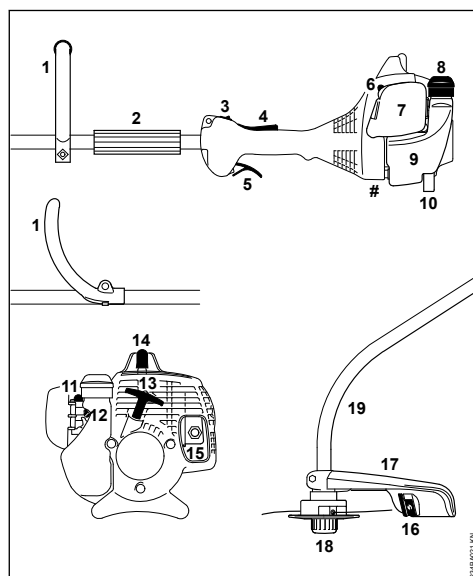
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

19.2 磨耗部品

パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます:

- カutting アタッチメント (全種)
- カutting アタッチメント固定用パーツ (ライダープレート、ナット等)
- カutting アタッチメント用デフレクター
- クラッチ
- フィルター (エアー フィルター、燃料フィルター)
- リwind スターター
- スパーク プラグ

20 主要構成部品



- 1 ループハンドル
- 2 スリーブ
- 3 停止スイッチ
- 4 スロットトリガーロックアウト
- 5 スロットトリガー
- 6 チョークレバー
- 7 エアフィルターカバー

8 タンクキャップ

9 燃料タンク

10 マシンサポート

11 手動燃料ポンプ

12 アイドリングスピード調整スクリュー (LA)

13 スターターグリップ

14 スパークプラグターミナル

15 マフラー

16 ライン制限ブレード

17 ガード

18 草刈ヘッド

19 シャフト

機械番号

21 技術仕様

21.1 エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

21.1.1 FS 38

排気量:	27.2 cm ³
シリンダー径:	34 mm
ピストンストローク:	30 mm
ISO 8893 に準拠した出力:	0.65 kW (0.90 PS)
アイドリング回転数:	8300 rpm 時
回転数制御範囲 (公称値):	2800 rpm
出力シャフトの最高回転数	10600 rpm
(カutting ツールの取付部):	

21.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネットイグニッション
 スパークプラグ (雑音防 止): NGK BPMR 7 A
 電極ギャップ: 0.5 mm

21.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量: 330 cm³ (0.33 l)

21.4 重量

燃料なし、カutting ツールおよびデフレクターなしの状態
 FS 38 : 4.1 kg

21.5 騒音・振動数値

音響値・振動値は、アイドリング回転数と最大定格回転数の運転状態を等しくして測定したものです。

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

97 dB(A)

ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル L_{wq}

106 dB(A)

ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

左ハンドル 右ハンドル
9.5 m/s² 8.0 m/s²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

21.6 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

21.7 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

22 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニング

を受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

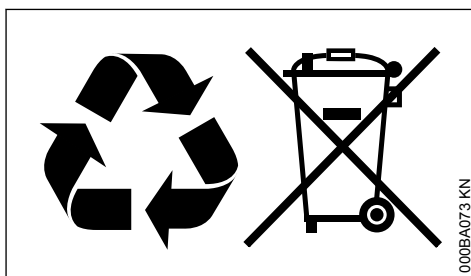
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

23 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

24 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル:	刈払機
製造ブランド:	STIHL
タイプ:	FS 38
シリアル番号:	4140
排気量:	27.2 cm ³

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版

に準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11806-1、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 10884 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

FS 38: 109 dB(A)

音響出力レベル保証値

FS 38: 111 dB(A)

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



25 UKCA 適合宣言

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において

モデル: 刈払機
製造ブランド: STIHL
タイプ: FS 38
シリアル番号: 4140
排気量: 27.2 cm³

英国規則 The Restriction of the Use of Certain Hazardous Substances in Electrical and Electronic Equipment Regulations 2012、Supply of Machinery (Safety) Regulations 2008、Electromagnetic Compatibility Regulations 2016、Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001 の関連する条項に適合しており、製造日時時点で有

効であった以下の規格のバージョンに準拠して開発および製造されたことを保証いたします:

EN ISO 11806-1、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルの測定値および保証値は、ISO 10884 規格を適用の下、英国規則「Noise Emission in the Environment by Equipment for use Outdoors Regulations 2001, Schedule 8」に準拠して算出しています。

音響出力レベル測定値

FS 38: 109 dB(A)

音響出力レベル保証値

FS 38: 111 dB(A)

技術文書の保管:

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



26 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-234-4321-E



0458-234-4321-E